



東青地区



# 丸つけは先生だけじゃない

保護者とともに学力の定着を目指す



青森市立三内小学校 「基礎基本の時間」における丸つけボランティアの活動

## この取組を紹介したわけ

「保護者が丸つけ」と聞くと、驚かれる人が多いと思います。

青森市立三内小学校では、平成16年から「基礎基本の時間」に保護者が丸つけに参加しています。県内ではまだまだ少ない活動ですが、どのように行っているか紹介します。

## このような活動です

青森市立三内小学校では、基礎学力の定着を図るため、年間10数時間「基礎基本の時間」を設けています。「基礎基本の時間」は、プリントやドリルにより計算と漢字の練習をして習熟を図る時間です。そのプリントやドリルの丸つけに保護者が参加しています。

学校によってはドリルタイム等に、校長先生や教頭先生等が丸つけに入り、担任が個別指導を行っているところもあると思います。三内小学校の場合は、たまたまそれが、保護者になっただけであると考えれば分かりやすいと思います。

## このように進めています

ボランティアの募集は、各学年で発行する学年だよりで呼びかけています。予め参加の可否を確認していません。

保護者は、当日時間に合わせて各教室にまっすぐ行きます。特に、事前の打ち合わせなどはありませんので、時間に来て時間で帰ることができますようになっています。

保護者は、各教室に入り、担任から赤ペン、今日のプリントやドリルの問題と解答を受け取り、用意された机に座ります。児童たちは、一斉に課題に取り組み、終わったら丸つけをしてもらうために、保護者の前に並びます。保護者は丸つけし、その間、教師は子どもたちの取組の様子をみたり、個別指導をしたりすることができます。





東青地区

## ここが聞きたい お答えします

Q： 子どもの個人情報に関わることが心配なのです。

A： 丸つけに参加している保護者が地域や家庭で、子どもたちのことを言うのが心配なのだと思います。しかし、これまでに、そのようなトラブルはおきていません。

参加している保護者の皆さんには、丸つけに集中していて、また、子どもたちは次から次へと並ぶので、「あの子は…」、「この子は…」というようなことは気にならないようです。

また、「基礎基本の時間」は、これまでの学習してきたことの練習ですので、子どもたちに大きな差がないことも考えられます。

Q： 予め、個人情報の取り扱いなどについての事前に研修や指導を実施しているのですか。

A： 特に、行っていません。これまでに、トラブルもありませんし、参加している保護者の皆さんには、そのことについては十分に配慮してくださっていると思っております。

Q： 教師と保護者との事前の打ち合わせは行っているのですか。

A： 「基礎基本の時間」が始まる前に、今日の進め方について確認する程度です。保護者は、その日に都合がつき参加したいと思った場合でも、参加することができます。

Q： 丸つけボランティアの募集は、どのように行っているのですか。

A： 各学年が発行する学年だよりで呼びかけをしています。例えば、下記のとおりです。  
(※ある学年だよりを再構成しました。)

11月の行事予定						
日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	30	31
		卒業式				
1	2	3	4	5	6	7
	入園式					
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
		丸つけ時 後勤				
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	1	2	3	4

**お知らせ**

- 15日(木)は市教育研究会のため、休校
- 23日(火)は、東北震災の義援金受付
- 29日(木)は、天皇陛下御即位祝賀のため、休校

・基礎基本の時間があります。丸つけ等でお家の方にご協力いただきたくお願いします。時間に余裕のある方は、行事予定期を確認の上、お手伝いいただければ大変助かります。子どもたちも喜びます。

**手ぬい、うまいの銀行**



Q： 当日集まらなくて困ることはないのですか。

A： 事前に参加者を把握するようなことはしていませんので、その時間になってみなければ分かりません。しかし、無理に集めようとすれば、保護者の方に負担をかけることになります。そうすれば、次に続かなくなると思います。無理せずに、集まった人数で実施します。

Q： 学年によって集まりにはらつきはあったりするのですか。

A： 学年が上がるにつれ、参加する保護者の数は減ってきます。「高学年は、難しい」というイメージがあるようです。また、低学年の子どもたちは、保護者が来てくれることがうれしいので、「来て、来て」と言うそうです。

Q： 先生方と保護者との関係が心配なのですが。

A： 普段の授業であれば、子どもがつまずいている場面や教師が厳しく指導しなければならない場面も予想されます。子どもがつまずいている姿は、保護者の方に見せたくありませんし、保護者の方も見たくないでしょう。また、教師が保護者に遠慮して指導できないことがあるかもしれません。互いに気を遣うようであれば、一緒にやらない方がいいと思うかもしれません。

三内小学校では、「基礎基本の時間」に限って行っています。その時間は、それまでに、十分に学習してきた計算や漢字を練習し習熟を図る時間です。ですから、児童の速さに違いがありますが、つまずく場面や厳しく指導するような場面にはなりません。

### これまでのみちのり

もともとは「基礎基本の時間」に、教頭や教務主任などが各学級に入り、丸つけを行っていました。しかし、子どもたちが次から次へと並び、待っている時間が長くなり、十分に練習できず困っていました。

ある時、「基礎基本の時間」の取組を保護者に理解していただくための学習公開日を設定しました。その時に、たまたま参加していた保護者の方々に、「丸つけをやってみませんか。」と気軽に声をかけたところ、「丸つけぐらいならいいですよ。」ということでスタートしました。

保護者の中には、解答をもとに丸をつけるだけでいいという気軽さとともに、自分の子どもが今どのようなことに取り組んでいるのか知りたい、参観日や行事でないときの子どもの様子を知りたいという気持ちもあったのでしょう。学校だよりで呼びかけたところ、参加してくれるようになりました。もともと、「いつでも自由に見に来てください。」と保護者に呼びかけていたのですが、きっかけがないとなかなか来られるものではありません。ちょうどいい、きっかけになったのかも知れません。

その後、学年だよりで呼びかけるようになり、現在のような形になりました。もともと、いろいろな形で保護者の皆さんが学校に協力していたという基盤もあり、その延長で取り組んでくれたのではないかと思います。

三内小学校では、このような取組を始めて5年になります。子どもたちは「基礎基本の時間」になれば誰かがくるというのは当たり前になっています。自然な形で進んでいます。

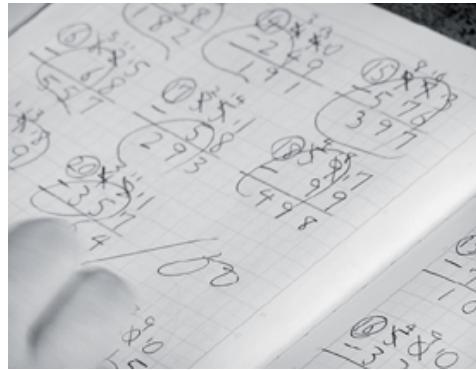
## この活動を行って 成果・課題、そしてこれから



東青地区

参加している保護者の声を紹介します。

- ・「始めたきっかけは、自分の子が学校でちゃんとできているか心配で、確かめたくてきました。あまりできていなかつたので、『お母さんが行くから頑張ってね。』っていいたら、それからよくできるようになりました。」
- ・「子どもたちに『頑張ってね。』と声をかけるとみんな喜んでくれるのでうれしいです。役に立っている感じがします。」
- ・「家でも宿題を見ていますが、学校に来てこういう活動をすると、今学校でどんなことに取り組んでいるか知ることができます。」
- ・「ああ、他の子も、ここが…』とつまずきが分かれます。家庭で子どもに教えるときに参考になります。」
- ・「初めて参加しましたが、子どもたちとは顔見知りだったので気兼ねなくできます。初めてでも大丈夫でした。」



真土校長先生にお話を伺いました。

丸つけだけということであっても教室に入ると、参加されている保護者は子どものいろいろな様子が分かると思います。いい意味で先生方がどれだけ苦労しているか、少しでも伝わると思います。子どもの普段の様子を知ってもらうことで、学校の味方になってくれるのではないかと思います。今、いろいろな問題が起きていますが、普段の子供たちの様子を見ている保護者がいれば、『そう言うけれどね、先生方はこうして…』という声が出てくるのではないかでしょうか。

また、保護者の方が教室に入るということで、先生方はちょうどいいくらいの緊張感を持つようです。

今後も、たくさんの保護者の皆さんに参加してほしいと思っています。



# クラブ活動は講座制

## 地域の人材が講師を務めるクラブ活動



青森市立大栄小学校のクラブ活動

### この取組を紹介したわけ

青森市立大栄小学校では、クラブ活動に「講座制」を取り入れています。「講座制」というのは、公民館で開催されている講座のような形で行うので、そう呼んでいるそうです。

クラブの講師は、すべて学校外の人材で、これまでに公民館等の講座や教室で指導してきた人が中心です。そこで、小学校と社会教育が協働で進めた取組を紹介します。

### このような活動です

大栄小学校は、青森市浪岡地区にある全校児童数44名の小さな小学校で、クラブ活動には4年生以上の23名が参加しています。

平成20年度は、年8回のクラブ活動を実施しました。開設されたクラブは、音楽クラブ、スポーツクラブ、金魚ねぶた作りクラブの3つです。

クラブの講師は、浪岡地区ボランティア指導者や津軽達人バンクなどの学校外の人材で、これまでに、公民館などの講座や教室で指導されたことがある人が中心です。

#### 金魚ねぶた作りクラブ

講師は、浪岡地区のボランティア指導者です。8回を通して一つの作品を完成させました。





東青地区

### スポーツクラブ

スポーツクラブでは、卓球（4回）、ユニカール（2回）、ソフトテニス（2回）の3種目に取り組みました。講師は、元浪岡町体育館長にお願いしました。元館長さんは、種目に合わせて地元の方を指導者として紹介してくださいました。



### 音楽クラブ

大正琴とアコーディオンにそれぞれ4回ずつ取り組みました。大正琴の講師は津軽達人バンクの人材で、黒石市の方です。大正琴も用意してくれました。

アコーディオンは、学区に住んでいる元小学校の校長先生が講師です。音楽室のアコーディオンを使って曲を指導してくださいました。



### このように進めています

講師の皆さんには、実施回数に合わせて計画を立て、その計画のもとにクラブ活動を進めています。ですから、クラブ活動のある日、時間に来校し指導しています。事前の打ち合わせなどは、クラブ活動が始まる第1回目の時に行ってています。

学校としては、子どもたちに学校の外部からの講師ということをふまえ、失礼のない態度で臨むように指導しています。



## ここが聞きたい お答えします

Q： どうして講座制にしたのですか。

A： 小さな学校では、先生の人数の関係で指導できることが限られてしまいます。子どもたちに多くの体験をさせてあげたいということが大きな理由です。

Q： 講師には、謝礼とか交通費は払っているのですか。

A： はじめに、無償ということを確認してお願いしているので、何も払っていません。特に、ボランティア人材バンクに名前がある方は、予め理解していくくださいます。

Q： 人材の情報はどのようにして入手しているのですか。

A： 旧浪岡町が作った人材バンクや青森市が発行している人材情報の冊子などを参考にしています。

Q： クラブ担当者の一番の苦労は。

A： 講師をお願いしたい人の活動時間帯と学校のクラブの時間帯が合わないことです。

Q： 打ち合わせなど大変なことはありませんか。

A： 講師の方々が回数に合わせて、内容を考えて計画的に進めてくれますので、特に打ち合わせに時間をとられるようなことはありません。

Q： 学校の先生は何をするのですか。

A： 学校の先生方は、担当のクラブで一緒に活動しながら、子どもたちの指導や講師の補助を行っています。講師の都合がつかない場合には、先生が指導することにしています。

Q： 講師をお願いして、断られたこともあるのですか。

A： 大人を対象として教えているので子どもは難しいという理由や時間帯が合わないということで断られたことがあります。

Q： クラブ活動の時間は45分ではなく60分ということですが。

A： せっかくの機会ですので、十分活動ができるように2年目から60分にしました。

## これまでのみちのり

講座制を取り入れたのは、平成18年度からです。それまでは、学校の教師だけが指導者となり、クラブ活動を行っていました。

前年度の教育課程の反省で、教師の人数により指導できることが限定され子どもたちが様々な体験をできないという意見がありました。浪岡地区の他の小学校では、公民館の講座や教室等で講師を務めている人が、学校のクラブ活動で講師をやっているということを聞いたことがありましたので、大栄小学校でも、外部から指導者を招く講座制に取り組んでいくことにしました。

1年目は大変でした。講座制を取り入れることだけは決まっていたのですが、具体的なことは、新年度になってから取り組みました。

もっとも苦労した点は、人探しです。担当となった先生は、最初、旧浪岡町で作った人材バンクを参考にしました。しかし、文字の情報だけでは不安になり、浪岡教育事務所社会教



育課に相談しました。「大栄小学校でもクラブ活動の時間に講師をやってくれる方を紹介してくれませんか。」とお願いしたところ、教育事務所の担当者からファックスで情報が届きました。その情報をもとに、相手に連絡して交渉することができました。

1年目は、スポーツ、絵手紙、こぎん刺し、たこ作りの4つのクラブでスタートしました。2年目は、同じクラブを継続して実施しました。3年目（平成20年度）は、児童数が減少したということ、たくさんの体験をさせてあげたいという理由からクラブの数を一つ減らし3つに、また、新しいクラブを取り入れました。その時にも、人材バンクを活用しましたし、浪岡教育事務所がサポートしてくれました。

学校だよりで、クラブ活動を紹介するなど、取り組みの様子を保護者や地域の方々に紹介しています。また、学校では学習発表会の時に、製作した作品とクラブ活動の様子の写真を展示してきましたが、今年度は初めてプログラムにクラブ活動の発表を入れました。音楽クラブの大正琴の発表を地域の方々が食い入るように見てくれました。

### この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

大栄小学校の近くには講座を開設している公民館がありません。市部だと民間のいろいろなクラブや教室、公民館や市民センターの講座など、近くで体験する機会がありますが、この地域では通っていけるところにはあまりありません。平成18年度までは「地域子ども教室」という事業があり、大栄小学校を会場にしていたので、子どもたちは様々な体験をすることができました。現在は、クラブ活動に講師が来てくださっているということでいろいろな体験をさせてあげることができます。

講師の方々からは、「大栄の子どもたちは、ちゃんと話を聞いてきちんとやってくれる。」という声をいただいています。子どもたちの新しいものを吸収したいという気持ちだと思います。

今後も「講座制」に取り組んでいく予定です。子どもたちにいろいろな体験をさせたいので、同じクラブは2年間だけ開設し、その後は新しい種目に取り組んでいきたいと思います。新しい種目に取り組む時に、人材を探すことが必要となりますが、これまでの蓄積があるので担当が変わったとしても大丈夫だと思います。



# いつまでも続けたい

## 保護者から地域の人として



青森市立大野小学校における図書ボランティアの活動

### この取組を紹介したわけ

青森市立大野小学校では、図書ボランティアが読み聞かせ活動や図書室の整備を行っています。PTAの活動として行っている学校や読書サークルがボランティア活動をしている例は多いと思いますが、大野小学校では、地域の方々が支援者として組織を立ち上げ、取り組んでいます。

### このような活動です

図書ボランティアには、『ほんわっか隊』と『修復隊』の2つがあります。

読み聞かせを行うボランティアが、『ほんわっか隊』です。主な活動は、毎週木曜日の『朝の読書の時間』（8時5分～20分）での読み聞かせです。そのほかに、全校読書の日や学年集会、そして、授業時間でも活動しています。

『朝の読書の時間』の朝、メンバーは学校にやってきて、その日割り当てられた教室に入ります。たいていは6名のメンバーが6つの教室に入ります。

教室では、机を後ろに下げ、子どもたちが座って待っています。そして、時間になるといよいよ読み聞かせが始まります。

読む本のテーマは毎回決まっていて、各メンバーは、そのテーマに沿った本を選び、15分間で読めるだけの本を読みます。時には、学年集会として体育館で行うこともあります。

そのほかにも、6年生の卒業をお祝いするようなお話会を企画したり、授業にも協力したりしています。

例えば、3学年の国語の『世界の国からこんにちは』では、担任の先生からお願いされ、韓国やロシアなどいろいろな国の絵本を紹介したことがあります。





東青地区

図書室の図書の修復や登録などを行うのが『修復隊』です。

『修復隊』は、水曜日の午後に行う午後班と金曜日の午前に行う午前班の2つの班に分かれて活動しています。活動の内容は、新刊本のフィルムコート貼り、バーコード貼り、パソコンでのデータ入力、図書室の環境整備、そして、本の修復です。図書室で1時間活動しています。



### このように進めています

読み聞かせの進め方を紹介します。

『ほんわっか隊』の隊長が計画表を作り、メンバーは活動できる日に名前を記入します。各回、季節や学校行事などに合わせてテーマを決めています。メンバー各自が各回のテーマに合わせて、本を選びます。

参考：平成20年度2学期の計画表

	クラス担当	クラス担当	クラス担当	クラス担当	クラス担当	クラス担当	名前を記入する テーマ
9/ 4	1-2	1-1	4-1	4-3	5-2	6-4	敬老 運動等
9/11	2-3	1-4	2-1	2-4	4-2	4-4	
9/18	3学年集会		2-2	1-3	1-5	6-2	
9/25	1-1	2-3	2-5	3-2	5-3	5-4	
10/ 2	1-4	2-3	2-6	3-2	5-3	5-4	運動会 秋
10/ 9	5-4	3-1	3-2	4-2	4-3	5-1	秋 平和
10/16	1-1	1-2	2-2	2-3	3-1	3-4	秋 月
10/23	1-3	1-4	3-3	4-4	6-1	6-4	ハローウィン
11/ 6	2-4	2-5	1-6	3-4	6-2	6-2	爽り
11/13	2学年集会		1-1	3-3	4-1	5-3	懶く
11/20	全校お詫し会						クリスマス
11/27	2-2	4-3	5-2	6-2	6-3	6-4	
12/ 4	1学年集会		2-1	3-1	5-1	6-1	冬
12/11	2-2	2-3	2-5	3-2	3-4	5-8	
12/18	1-2	2-4	4-1	5-1	6-3	6-4	正月 干支

『朝の読書の時間』の朝、各メンバーは担当の教室に行き、読み聞かせを始めます。そして、終わったら、図書室に集まり記録をつけます。これまで読んだ本については、全部リストを作っています。

本は、各学年の学習に関わるものも考えて選んでいます。選ぶときには、各教科の年間指導計画を参考にしています。

継続して行っていますので、蓄積した記録も参考になります。



## ある年の記録から

番号	日にち	タイトル	作者	趣	担当者	
4-1	5/18	だ(ちるだくちる よーいどんけついとう やさいのせなか ブックトーク【いろはにほへと】	梅田 復作・監修 きうちかつ	長野太	○○	
	8/31	たいへんたいへんあかちゃんまつ ぼくのうちに誰がきた ゆうたはともだち はじめなフレットおじさん	ペギー・ラスマン キャサリン・ゴーワン ティム・イーガン	ペギー・ラスマン マーコア'ヌー	△△	
	12/21	かさぶたくん 昔のかえりみち	ヤギュウゲンいちろう 藤原一枝	はたこうしあう	□□	
	3/22	ほるづき でっかいでっかいモヤモヤ祭	沢田どしき グーリニア・アイアンキッド*	フランクロジャース	左近りべか	○○
4-2	6/8	ルルルさんのじてんしゃ なっとう わがままいもうと まうんてんぱいぬ	いとうひろし 鈴城正尊 れじめ正一 ながたのぶやす	高部唯市 村上康成	△△	
	9/28	たさき山 エジソン	豊島聖介 西木賀介	笈平三郎 野町富貴子	□□	
	2/8	しってるねん どるぼうがっこ	いちかわけいこ かこさどし	長谷川義史	○○	

\* 学年毎、全校お話会、学年集会等に分けて整理しています。

## ここが聞きたい お答えします

Q : メンバーが集まらない時はどうするのですか。

A : 計画表が埋まらない時もあります。そんな時のために、隊長は後で記入することにしています。また、集まらない時は仕方ありません。無理をしないことをモットーにしています。

Q : どうして記録をつけているのですか。

A : 活動を振り返り、反省するために記録をつけています。

また、記録することにより、いつ、どのクラスで、どんな本を読んだのかが分かり、本を選ぶ時の参考にもなります。

Q : 本はどこから選ぶのですか。

A : できるだけ、学校の図書室にある本から選ぶようにしています。そうすると子どもたちは、続きを読みたい、同じシリーズのものを読んでみたいと思うと、図書室を利用することになります。

Q : 技術向上のために研修等をしているのですか。

A : 他校の図書ボランティアと交流したり、研修に出かけたりして技術の向上に努めています。





## これまでのみちのり

『ほんわっか隊』の仕掛け人、岩本美和子隊長にお話を伺いました。

「子どもたちは、公園で遊んでいても、いつも手にはゲームを持っていました。その姿を見ていて心配になりました。私は、本に触れてほしかったです。他校の図書ボランティアの活動を耳にしていましたので、自分でもやってみようと思いました。

初めはPTAの委員会活動として活動しようと思いましたが、PTAや保護者の立場では、子どもが卒業すると同時に活動を止めることになります。私は、『大野の子どもたちが、いつまでも健やかに成長してほしい』と願い、地域の住民という立場で関わることにしました。知っている人に声をかけ、ほんの4、5人で始めました。チラシを作って募集もしました。

活動したいことを学校に話しました。その時に、司書教諭の先生が窓口になってくれました。私は、他の小学校でやっているように、1時間の授業時間での活動をしたいと思っていたのですが、担当の先生からは、『授業には計画というものがあり、ねらいがあって指導しています。読み聞かせをやりたいからといって、授業時間にできるというものではありません。』という話を聞きました。先生との相談の結果、『朝の読書の時間』から活動することにしました。平成17年6月のスタートでした。

『朝の読書の時間』での活動を続けていくうちに、先生方から『授業でも』という声がかかるようになりました。また、全校お話会に参加したり、6年生の卒業をお祝いするお話会を企画したりするようになりました。今となっては、あの時は少し急ぎ過ぎたのかと思っています。

また、図書通信を発行し、活動を紹介したり、メンバーを募ったりしています。現在は、45名がメンバーとなり活動しています。

## この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

図書ボランティアの窓口になっている司書教諭の先生に話を伺いました。

ほんわっか隊の皆さんには、本を読んでくれるだけでなく、いろいろな本を紹介してくれます。先生方の知らない本をたくさん紹介してくれるので、図書室の利用や子どもたちの読書活動にもつながっていると思います。

また、先生方のリクエストに応えて、授業の中でも活動してくれますし、読書教材のサポートもしてくれるので助かっています。

朝の読書の時間に読み聞かせに入ってくれると心が落ち着くのか、その日、子どもたちは落ち着いて学習に取り組んでいるように思います。

『ほんわっか隊』の岩本隊長にお話を伺いました。

自分の子どもが世話になったことがあるかもしれません、大野の子どもたちが可愛いのです。できれば、いつまでも関わってみたい。

今後は、読み聞かせの活動を充実させることだけでなく、いろいろな活動で学校を支援ていきたいと考えています。



東青地区

# 地域コミュニティが 学校を支える

コミュニティ組織やグループが支援



青森市立佃小学校における学校支援活動

## この取組を紹介したわけ

地域のコミュニティが、学校を支援している事例は多くないと思います。

青森市立佃小学校では、余裕教室が地域のコミュニティに開放され、そこでは、さまざまなサークルが活動したり、地域を元気にしようと頑張っている市民グループが活動したりしています。これらの活動と学校の教育活動が結びついた事例を紹介します。

## このような活動です

青森市立佃小学校のクラブ活動には、地域の市民グループやサークルの皆さんのが、ゲストティーチャーとして参加しています。

クラブ活動の様子を紹介します。（『　』はゲストティーチャーの感想です）

### 昔の遊びクラブ

『70年も前の遊びと一緒にやるので、童心に戻るというか若がえる感じがする。若がえりの方法だね。』



### ストレッチクラブ

『子どもたちが生き生きとしている。また、体を柔らかくしたいなどの目標を持って休まずに来てくれるでうれしい。』





東青地区

### 華道クラブ

『楽しいです。子どもたちから元気をいただいて帰ります。』



### ここが聞きたい お答えします

Q：先生方の反応はどうですか。

A：先生方の感触はいいです。クラブ活動では、ゲストティーチャーが主体になって指導します。担当の先生は、サポートと連絡調整を担当します。外部から人が入るということは先生方にとってはプレッシャーになっているようですが、ゲストティーチャーから学ぶところがあり前向きに捉えているようです。

Q：佃小学校では、その他にも学校支援に関わる様々な活動が行われていると聞きました。どのような活動があるのですか。

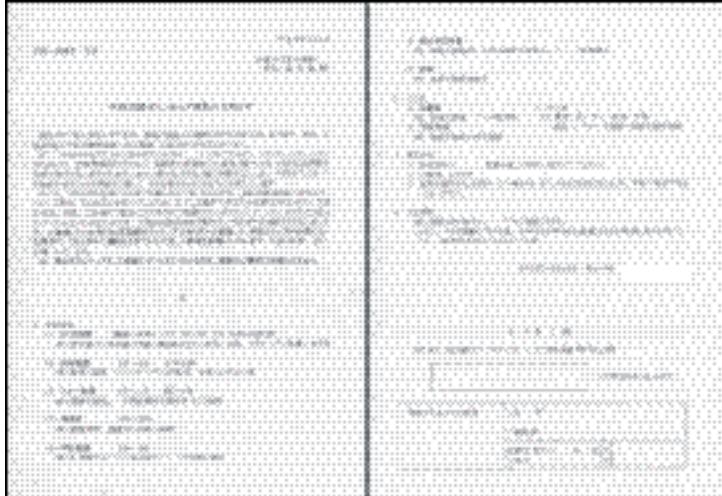
A：家庭科のアシスタントや学区探検でのサポーター、総合的な学習の時間には英語活動やパソコン指導で支援を受けています。

Q：どのようにして、ボランティアを募っているのですか。

A：学校支援ボランティアの登録を呼びかけるチラシを出していますが、一回の募集では集まりません。学校だよりを通して何度も、何度も呼びかけています。また、学校図書ボランティア募集（参考1）やクラブ活動参加への呼びかけ（参考2）など、内容によつては、その都度、募集しています。

保護者や地域の方の中には、学校を応援したいと思っている人はいっぱいいると思います。急がずに、ゆっくりと時間をかけて進めています。

参考1



参考2





Q： 地域との連携を進めるにあたり、心がけていることはありますか。

A： 気軽に何でも話せる関係づくりが大切です。そのためには学校を開放することです。

学校では、学校の様子を地域の方々に知ってもらうために学校だよりも回覧していますし、学校行事へ招待しています。

また、学校施設の開放も進んでいます。ふれあい教室だけでなく、体育館や校庭の開放もしています。日頃から、保護者や地域の方と関係を密にするようにしています。

### これまでのみちのり

平成10年、佃小学校に隣接したところに「つくだウェザーパーク」がつくられました。旧青森気象台の跡地を利用した青森市制100周年、市内100番目の公園で、地域の憩いの場になっています。

旧青森気象台の跡地の利用については、学校をはじめ地域の様々な立場の方々が2年間に渡り検討しました。その中で、佃小学校の余裕教室を地域の生涯学習の場として使ってもらおうという話がでて、佃ふれあい教室が開設され、さまざまなサークルが活動することになりました。

平成13年、もっと積極的に学校と地域と保護者の双方の活性化に向けた学校開放を目指すということで「佃ふれあい教室研究会」が発足しました。メンバーは学校関係者やPTA、町会長、民生委員、商店会、保健師等でした。そこで、ふれあい教室は、地域の方々が管理運営して学校の手を煩わせないとすることを決め、学校の鍵の開け閉めを地域に任せてもらうことにしました。この研究会が「ふれあいコミュニティ」という愛称で呼ばれ、やがて佃小学校学校開放運営委員会と発展していきました。



また、平成14年には、健康をつくるまちづくりに参加しませんかという呼び掛けに集まった人たちで「佃元気応援隊」が組織されました。佃地区で健康で人と人が交流できる元気な街にしたいという目標を掲げて活動している市民グループです。

佃元気応援隊とふれあいコミュニティが一緒になりますやったことは、子どもたちを巻き込んだイベントです。子どもたちを巻き込むと保護者も一緒にきます。大人同士が顔見知りになると、やがて地域で会った時にあいさつを交わすようになり、地域が元気になると考えました。そこで、学校の体育館に泊まり込む防災体験キャンプを開催しました。その他にも、ウェザーパーク盆踊り、雪を楽しむ地域の冬祭りを開催し、これらのイベントは地域の3大イベントに成長し、いつしか商店街や地域の小中学校のPTA等、地域全体で取り組むようになりました。そして、佃元気応援隊が佃小学校PTA主催の佃小まつりや佃中学校祭に、昔の遊びコーナーを開設することで協力するようになり、さらに地域の結びつきが強くなつてきました。

以前から、佃小学校では学習アシスタントや施設メンテナンスなどのボランティア活動は



# 地域とともに育つ教育活動

商店街、幼稚園、保護者…地域みんなで



青森市立浪打小学校における地域との連携活動

## この取組を紹介したわけ

青森市立浪打小学校では、保護者や地域の方はもちろんのこと、地元の商店街や近隣の幼稚園などと連携を図りながら様々な教育活動を進めています。どうして、そのような多様な活動が行われているのか、連携を進めていく上で配慮していることを紹介します。

## このような活動です

浪打小学校では、各学年の各教科の中で、地域に出かけることもあれば、地域の方を招くこともあります。

例えば、商店会との関わりでは、地域には浪打銀座という商店街がありますが、5年生では商店街の協力をいただきながら商売の秘訣を取材したニュース番組の製作をしています。

学区探検やプール学習では、保護者の方が引率の補助に協力しています。

また、子どもたちの登下校時の安全確保のために、地域をあげてミツバチ運動（ミツは3時、ハチは8時のこと。PTAが全家庭や地域に配付している巡回の腕章をつけて、登下校の時間にあわせて散歩や家事をして子どもたちを見守ろうという運動。）を取り組んでいます。

幼稚園とも15年以上にもわたり交流しています。学区に5つの幼稚園があります。幼稚園との関わりも地域との取組と考えています。初めのころは、生活科に関わる学区探検の中で行っていました。幼稚園としては、自分たちの園を卒園した児童の様子を知ることができ、園児にとっては小学校への希望を持つ機会になります。学校としては、児童が自分の成長を意識できる機会になり、双方のメリットが合致することになります。現在は、2学期に2年生が幼稚園に行き、3学期には、1年生が年長さんを招待することにしています。

その他にも、ゲストティーチャーや図書ボランティアなど、さまざまな活動をしています。





## このように進めています

連携を進める上で配慮していることを熊谷校長先生に伺いました。

### 地域に向けたメッセージの発信する

『学校は、保護者は、地域は、それぞれ、子どもを育てるために何をやらなければいけないか』というメッセージを発信しています。

学校だよりを毎月発行し、地域の皆さんにも届くようにしています。その中には、連携の様子やお礼などの記事も載せていますが、子どもたちをどう育てようとしているのかをアピールするため『校長室の扉をあけて』というタイトルでコーナーを設けています。

また、学校が何をやって、何を目指しているのか、学校を理解してもらうことにつながればと思い、学校要覧も保護者や地域の方々にも渡しています。

### 学校を開き見てもらう

浪打小学校では、地域の方々に学校行事だけではなく地域懇談会や校内研究会等の授業も見てもらったり、また、学校評議員の方々には学校評価のために学校へ何度も来てもらったりしています。

いろんな場面で子どもたちを見てもらうこと、子どもたちの変容を見てもらうことが一番だと思います。子どもの姿が答えです。学校の頑張りが伝われば、地域の方々は喜んで協力してくれると思います。

### データはきっちり整備する

外部と連携しながら進めることは大変です。新たに担当する人は、「いつまでに、何をすればいいのか」、「どのような手紙を出せばいいのか」など戸惑うことがあるでしょう。浪打小学校では、ファイルや電子媒体でデータをきっちり整備しています。長く連携していく上では不可欠です。

### 少し負荷をかける

例年行っている連携事業や交流事業であっても、先生方に黙って任せているとやらなくなってしまうことがあります。また、マンネリになり、連携の意義が薄れることもあります。

連携を継続するために、また、連携を強くするため、目標やねらいに少し負荷をかけるようにしています。そうすると、マンネリ化することもなくなります。



### やりっぱなしはいけない

学校では目的があって連携していますが、連携相手にもメリットがないと長続きはしないでしょう。ゲストティーチャーの場合は、それはお金でもなければ物でもなく、子どもからの「ありがとう

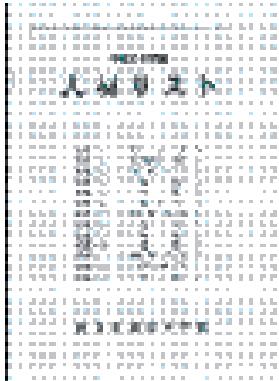


う」という言葉だと思います。「おじさんからすごく大切なものを学んだ」という子どもの素直な学びの声、それをきちんと伝える手立てを考えることが必要だと思います。また、子どもたちには、何を学んだか、どんな価値があったのかを返すことも大切です。

### ここが聞きたい お答えします

Q：浪打小学校の人材リストが充実していると聞きましたが、どのようなものですか。

A：人材リストは13の領域に分けており、氏名、得意なもの、住所、電話番号などの項目で構成しています。62名がリストに掲載されていますが、実際に活動された方はもっと多いです。1人の人材は、一つのネットワークの要です。



領 域	登録数	得意なもの記載されている生年もあ る子、在ふた郷作
伝承遊び・歴史	5人	音楽、吉澤び（お子玉、メシコ）
スポーツ	7人	トランポール、エアロビ、アシオ体操等
障害	3人	競走新開拓、ダンス
白鳥	2人	動物、自然
郷土史	4人	観察中の体験
製作活動	3人	陶芸、絵画、洋裁、リフォーム
音楽	2人	鑑賞、演奏
料理	3人	和洋調理作り、南平し、味噌作り
環境	2人	リサイクルー駆、空き缶のリサイクル
国際交流	3人	英会話、モルディブ紹介
ボランティア	5人	地域の看護、介護、交通安全
その他	17人	算算、パソコン、生教育、トカラエーション

領域 1 (ねふた)

姓 名	得意なもの	住 所	電話番号	備考
1 白〇〇〇	電子工作り組： 活動の丁目一の一	000-00000	在ふた郷	
2 ○〇〇〇	電子（太郎）	佐賀市田口一〇一〇	000-00000	音楽会主催
3 白〇〇〇	電子（白の電子）	佐賀市田口一の一	000-00000	CD販売
4 白〇〇〇	お酒を醸す	佐賀市田口一〇一〇	000-00000	

領域 2 (スポーツ)

姓 名	得意なもの	住 所	電話番号	備考
1 ○〇〇〇	エアロビ	佐賀市田口一〇一〇	000-00000	
2 ○〇〇〇	エアロビ	佐賀市田口一〇一〇	000-00000	
3 ○〇〇〇	エアロビ	佐賀市田口一〇一〇	000-00000	
4 ○〇〇〇	エアロビ	佐賀市田口一〇一〇	000-00000	○午睡免職

領域 1.3 (その他)

姓 名	得意なもの	住 所	電話番号	備考
1 ○〇〇〇	西直	佐賀市丁目〇-〇	000-00000	
2 ○〇〇〇	西直	佐賀市丁目〇-〇	000-00000	平日午前
3 ○〇〇〇	西直	佐賀市丁目〇-〇-〇	000-00000	
4 ○〇〇〇	西直	佐賀市丁目〇-〇-〇	000-00000	週末音楽会



東青地区

Q：多くの学校では人材リストを作ってあまり活用されていないと聞きます。活用される人材リストにするために、どのような取組をしていますか。

A：浪打小学校では、実際に活動した方をリストに掲載しています。活動の結果としてリストが生まれたので、リストの内容は使える情報、生きている情報になります。また、活動した方をリストに加え、お願いする時の留意をつけ足していくようにすることで、活用しやすい人材リストになっていると思います。

### この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

熊谷校長先生にお話を伺いました。

浪打小学校の研究主題は、『思いや考えを伝え合い、共に高め合うことができる子どもの育成』です。地域の方々との関わりの中で、国語で学んだ言語力を生かすことや体験と言語をつなげることができます。

幼稚園との交流を進めることで入学前から子どもの情報を知り入学後の指導につながりました。今後は、新一年生がよりスムーズに小学校生活を始めることができるようなスタートカリキュラムを作りたいと考えています。そのために、学校で行う公開研究会などに幼稚園の先生に来てもらいますし、本校の先生も幼稚園の様子を見にいきます。そして合同の会議を持ち幼稚園についての理解を深めたいと思っています。

学校が、その地域で、地域を教材に学習していくと、学校が地域を愛する子どもを育てるだけでなく、地域の方々に「地域の子ども」という意識が生まれると思います。地域に住んでいる人が、学校の様子を知り、子どもの顔を知るようになれば、危ないときでも声をかけてもらえるし、防犯のベースにもなっていくと思います。

浪打小学校は、地域に支えられている学校だと思います。だからこそ、学校も地域を大事にしています。たとえ、トラブルがあったとしても一緒に考え、共に支え合っていくようなスタンスでいることが大切です。都合の悪いことは眼隠しするようではだめだと思います。

いろいろな機会で、学校を地域に見せるようになってからの方が、地域の方が学校に集まつてくるようになりました。また、学校をどんどん開くようになってからの方が、地域から信頼されるようになったと思います。学校がいい加減なものを見せると評価が下がりますし、努力したものを見せれば評価は上がります。教師の力量が上がることにもつながっています。地域の人も保護者も学校のことがよく見えているからこそ、協力してくれていると思います。これからも学校を開いていき、さらに連携の絆を強くしていきます。

